

B型肝炎ワクチン予防接種の説明

接種対象年齢 (無料で受けられる年齢)	生後12月に至るまでの間にある者(誕生日の前日まで)
望ましい接種年齢	生後2月から生後9月に至るまで
ワクチンの種類	不活化ワクチン
予防する病気	<p><B型肝炎></p> <p>B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。</p> <p>B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合(この状態をキャリアといいます)があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。</p> <p>ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力(免疫)ができます。</p> <p>免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。</p> <p>※予防接種を受けても、お子さんの体質や体調によって免疫ができないことがあります。</p>
接種回数	<p>3回</p> <p>1回目の接種から3回目までの接種は139日以上あける</p> <p>1回目 → 27日以上 → 2回目 → 2回目からは6日以上 → 3回目</p>
実施時期	年間通して実施
実施場所	個別予防接種実施医療機関
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 任意接種(自費)で既にB型肝炎ワクチンの接種を受けたことがある人は、既に接種した回数分の接種を受けたものとみなし、残りの回数を接種することになります。 母子感染予防のために抗HBs人免疫グロブリンと併用してB型肝炎ワクチンの接種を受ける場合は健康保険が適用されるため、定期接種の対象外となります。
副反応	<p>接種箇所が赤くなったり、腫れたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。</p> <p>注射したところだけでなく、熱がでたり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。</p> <p>いつもより機嫌が悪かったり、ぐずったり、眠そうにしたりすることがあります。</p> <p>極めてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。</p>
備考	<p>各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。</p> <p>必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。</p>